図書館だより

令和５年度　第 11 号　磐田西高等学校図書課

【 堀内　美都先生　推薦　　キネマの神様（文藝春秋）　著：原田マハ 】

「キネマの神様」からの贈り物はなんだろう。

バリバリのキャリア戦士から映画ライターに転身した「円山歩」、ギャンブル大好き病気して借金発覚だけど何よりも映画が大好き愛している「父」、そんな父をずっと支えている「母」、父と同じく映画を愛し映画館館長「テラシン」、「歩」の新旧の個性豊かな同僚達、そして、「父　ゴウ」と映画について真剣に語り合う正体不明の「ローズバッド」。

2021 年に映画にもなった「キネマの神様」。登場人物は「歩」を中心に動き出すが、いつの間にか「ゴウ」と「ローズバッド」中心に、周りが意図せず巻き込まれ動き出す。様々な困難にも一致団結し、映画好きのための場（評論場と映画館）を守りぬき、会ったこともない「ゴウ」と「ローズバッド」の映画を愛する気持ちが通じてめばえる親愛の情が、登場人物たちや読み手を最後はホロっとさせる。

何気ない状況の中にもドラマがあり、やっぱり人って暖かくあってほしいし暖かくていいなあと思う。きっと私たちの何気ない日常も同じではないだろうか。

原田マハの作品では、アートがテーマとなっているものが多い。彼女の経歴によるものであるが、すべてに通じるのは、どこか人間臭くて何かを極めている人（愛するものがある人）が登場するところかと思う。今回は一見ダラシナイ「父　ゴウ」は、小さいころから映画を心の底から愛し続けひょんなことから映画についてつぶやく。そして、「ゴウ」のつぶやきに待ったをいれる「ローズバッド」も映画をこよなく愛している。映画を損得なく心の底から愛し続けている彼らには「神様」がそばにいて、さまざまな奇跡を起こす。

読み終えた後、自分も本の中に入り込んで間近で見ている臨場感をもらえるのは映画と一緒である。キネマの神様の本も楽しんでほしいが、本の中で紹介されている映画も機会があれば観てみたらどうだろう。ぜひ、本や映画から何かを感じる心を大切にしてほしい。

【 著者情報 】

2003 年にカルチャーライターとして執筆活動を開始し、2005 年には共著で『ソウルジョブ』上梓。そして同年、『カフーを待ちわびて』で第 1 回日本ラブストーリー大賞を受賞、特典として映画化される。maha の名でケータイ小説も執筆する。キュレーターの経歴とも相まって、美術を題材とした作品が多い。

2022 年 7 月、原田が発起人のひとりとなり、食のセレクトショップ「YOLOs（よろず）」を京都市中京区にオープン。実店舗開店に先立ち、7 月 1 日から note にて食に関するエッセイ『やっぱりあれ食べよう。』連載開始。

本を　令和５年度（年間）読書量調査の結果　読もう

★ 一人平均読書量　1位　１２HR(13.８冊)　２位　１５HR(8.６冊)

HR	11	12	13	14	15	16	21	22	23	24	25	26	31	32	33	34	35	36	総計
冊数	7.3	13.8	5.0	8.5	8.6	5.9	4.2	5.1	5.2	4.1	7.5	3.2	6.3	2.7	5.0	3.8	4.4	3.2	5.8

★ ７冊以上読んだ人　1位　１２HR(95%)　２位　１４HR(85%)

HR	11	12	13	14	15	16	21	22	23	24	25	26	31	32	33	34	35	36	総計
人数	21	38	9	35	19	14	7	8	9	9	16	0	19	2	12	4	12	4	238
%	51%	95%	22%	85%	48%	34%	18%	21%	23%	22%	38%	0%	50%	5%	32%	11%	29%	11%	３３%

令和５年度年間ベストリーダー１０

読書量調査の結果から、今年度の年間ベストリーダーを紹介します。

１位	15HR	星之内	琥弥太	62 冊	２位	25HR	鴉	愛佳	44 冊
３位	12HR	佐藤	拓夢	42 冊	４位	11HR	深田	康平	41 冊
５位	12HR	相塲	ひみこ	30 冊	５位	12HR	永井	聡倫	30 冊
７位	15HR	相場	風河	29 冊	８位	12HR	佐次本	絆空	27 冊
９位	25HR	鈴木	日菜	26 冊	１０位	16HR	村松	叶翔	㉑冊

NEW 芥川賞・直木賞作品　話題の書籍続々入荷

第 170 回芥川賞『東京都同情塔』(九段理江著)、直木賞『ともぐい』(河崎秋子)『八月の御所グラウンド』(万城目学)、はじめ各賞の候補作品もすべて入荷しました。また、今年度の本屋さん大賞のノミネート作品も各種入荷しています。

進級する春休み、ぜひ、お気に入りの一冊を見つけませんか。図書室まで、読みに来てくださいね。お待ちしています。